現状の課題

東西通りロータリー付近のエリアは、吹田キャンパスの中央にあり、福利厚生施設、生命科学図書館、留学生センター、事務局棟などの公共性の高い建物に囲まれていることから、キャンパスのシンボルゾーンとなるポテンシャルを有している。
しかしながら、現状は、ロータリー周辺の大規模な駐車場やレーザーエネルギー学研究センターの巨大な壁面、荒れた緑地と法面などにより、殺風景で秩序のない景観となっている。

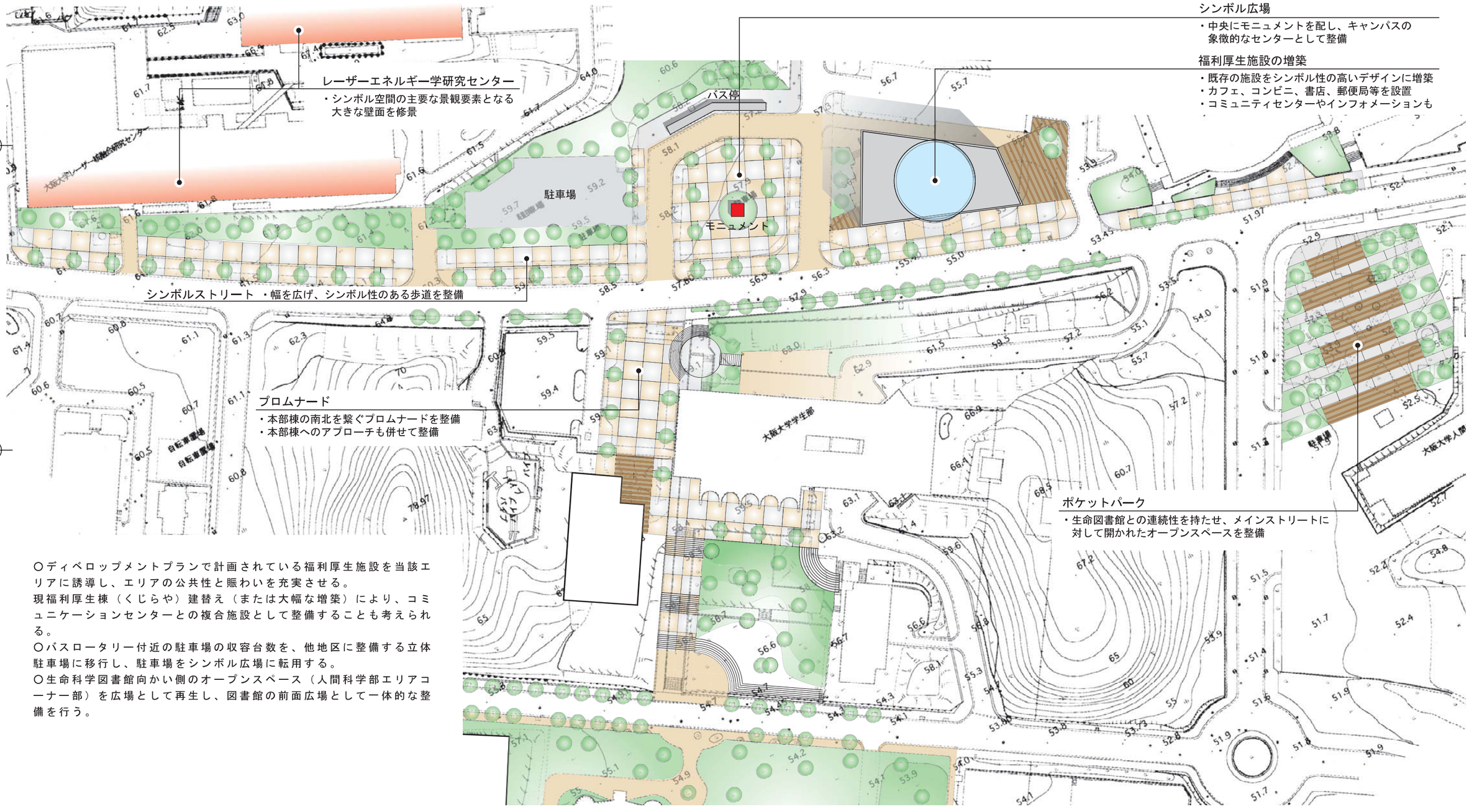
キャンパスの交流の核としての役割も求められるが、広場などの有効なオープンスペースは未整備であり、シンボル空間の形成に向けて早急な対策が必要である。

計画の方針

現在のオープンスペースを再編し、駐車場や緑地を広場や草地・芝生に転用することにより、人々が集うことのできる場所を整備する。

広場は、ロータリー駐車場、生命科学図書館前（人間科学部前）をリニューアルすることにより確保する。また、これらの広場を、小広場やプロムナードで連結し、エリア全体がキャンパスのシンボル空間として一体に機能するよう配慮する。

レーザーエネルギー学研究センターの壁面修景等を行い、シンボル空間に相応しい景観形成を計る。



○ディベロップメントプランで計画されている福利厚生施設を当該エリアに誘導し、エリアの公共性と賑わいを充実させる。
現福利厚生棟（くじらや）建替え（または大幅な増築）により、コミュニケーションセンターとの複合施設として整備することも考えられる。
○バスロータリー付近の駐車場の収容台数を、他地区に整備する立体駐車場に移行し、駐車場をシンボル広場に転用する。
○生命科学図書館向かい側のオープンスペース（人間科学部エリアコーナー部）を広場として再生し、図書館の前面広場として一体的な整備を行う。